

## 東日本大震災における支援活動

### 社会福祉協議会の職員派遣

#### 職員の派遣状況

震災発生後、全国の社会福祉協議会が、一体となって被災地支援に取り組むことが決まり、東海・北陸ブロックは、岩手県を支援することになりました。岐阜県では、大槌町社会福祉協議会を支援するため、岐阜県社会福祉協議会が、県内の市町村社会福祉協議会を取りまとめ、3月23日から1グループ3～4人で、8日間ずつ職員を派遣し、8月の現在も続いています。

多治見市社会福祉協議会では、4月12日からの第5グループ、6月21日からの第19グループ、7月21日からの第25グループに、それぞれ1人ずつの職員を派遣しました。

※7月15日号の『ふれあい』の表紙で紹介した「多治見市災害ボランティア隊」の派遣(5月27日～30日)にも職員2人が同行しました。

#### 被災地での支援活動

派遣された職員は、災害ボランティアセンターの運営や生活福祉資金の借入相談など、大槌町社会福祉協議会を総合的に支援しています。

#### 災害ボランティアセンターとは…

大規模災害が発生すると、多くのボランティアが復興支援のために被災地に向かいます。そのボランティアの受け入れ窓口となり、支援が必要な被災者の方の要望に対し、円滑で効果的なボランティア活動が行われるよう調整をします。災害ボランティアセンターの運営は、社会福祉協議会が行い、この調整のほか、行政が設置する災害対策本部や自衛隊の災害派遣部隊との連携を図ります。

大槌町社会福祉協議会が運営する災害ボランティアセンターでは、連日100人を超えるボランティア(多い時には500人を超える)を受け入れています。

#### 大槌町協会の災害ボランティアセンターのホームページ

<http://kaigo.nsyakyo.or.jp/ootsuchi/>



活動前のオリエンテーションの様子  
受け付けたボランティアに、活動の内容や場所、注意することなど、指示や確認を行います。



災害ボランティアセンターで被災者の要望を受け付ける様子

活動場所の状況や連絡先など、ボランティアを派遣するために必要な情報を聞き取ります。

## 被災地に手作りうちわを贈りました

### ♥サンホーム滝呂 ♥ふれあいセンター姫

児童センターと老人福祉センターを利用する児童と高齢者80人が、手作りのうちわを200枚作り、岩手県の大槌町や山田町などに贈りました。ちぎり絵や水彩画、書道などの方法で、飾ったりメッセージを書き込んだりと、それぞれが思いを込めて作りました。

製作した方は「遠く離れていても被災地支援の思いを持ち続けたい」と、話していました。

